

夏目漱石の『三四郎』を精読する レジюме

- 三四郎が里見美禰子に感じた「矛盾」とは？ P29 P120 P183
- 菊人形を見に行く道すがらの乞食をめぐる会話について P113
- 三四郎の三つの世界 P80 P112 P225
- 広田先生の近代主義 P69 P113 P204 P260
- 広田先生の弁ずる「偽善」と「露悪」の道徳的価値 P137 P163-166
- 与次郎が広田先生の獵官運動をする理由 P130
- 「迷える羊」の意味 P126 P132
- 里見美禰子の宗教観 P184 P188 P278 漱石いわく「無意識(アンコンシャス)の偽善者(ヒボクリット)」
- 里見美禰子は、誰のことが好きだったのか？ P149 P193 P215

(ページは、新潮文庫による)

## 神の国 (Divinity) あの世 内面 宗教の善悪

第二の世界 理性・学問の世界

われは我が怒(とが)を知る。我が罪は常に我が前にあり  
良心の痛み=内面と現実の善悪の基準のズレ=罪悪感

**善**

(美・不変の真理)

迷羊(ストレイ Sheep)  
森の女(絵画のモデルの美禰子)  
広田先生の夢に出てきた少女

里見美禰子の恋

**悪**

矛盾だ!!  
(10章) by 三四郎

キリスト教の分けた線(近代人=里見美禰子の善悪の基準)

第三の世界 欲望・恋の世界

第一の世界 田舎の旧弊な世界

**善**

(露悪=形式的善)

偽善的な偽善

**悪**

(偽善)

無意識の偽善者(アンコンシャス・ヒポクリット)

里見美禰子の(見合い)結婚

99匹の羊  
7章の広田先生の説

## 世俗 (Secularity) この世 現実社会の善悪